

平成23年 明けましておめでとうございます

さわやか

第45号

平成23年1月15日

《発行》

(社)日野市シルバー

人材センター

日野市日野本町2-4-7

0421581-8171

会員数

平成22年11月30日

1,781名

男性 1,357名

女性 424名

入会者数

11月 37名

(男24名、女13名)

但し、退会者 7名

公益社団法人となる

新年を迎えて

日野市シルバー人材センター

会長 北村 讓司



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様ならびにご家族の皆様には、お健やかに平成23年の初春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は皆様方が、就業を通じ地域社会への多大なる貢献とともに、センターの事業運営にも大いに協力いただいたことを厚く御礼を申し上げます。

景気低迷と政治混乱のなか迎える平成23年でありますが、われわれには一筋の道が見えております。新公益法人への道であります。

昨年われわれは、新しい公益社団法人を目指し新法の求める定款変更をはじめ役員構成、新会計基準への対応等を準備し、5月定期総会において皆様方のご承認をいただいて東京都に対し移行認定申請を行いました。

そして11月22日、学識経験者による「東京都公益認定等審議会」の審議を受け、無事認定を受けることが出来ました。

社会奉仕活動が目的の一つに

今後は登記等の諸手続きを経て4月1日、公益社団法人日野市シルバー人材センターがスタートする予定となります。

新公益法人には団体自治と自己責任が求められます。

しっかりとしたガバナンス、情報公開による透明性の確保、そして

法令遵守などの経営ルールが求められます。

われわれは日野シルバー30年の歴史を踏まえ、この新しい制度下の公益法人として進んで行かなければなりません。

今年も政治、経済ともに厳しさが予測されますが、高齢化社会に期待されるシルバー事業の発展のために、会員の皆様ともども



前進して参りたいと存じます。

新公益法人では特に社会奉仕活動が目的の一つに挙げられております。

会員の皆様には就業活動はもとより、地域貢献活動にも一層のお取り組みをお願い申し上げます。

平成23年を皆様が健康で、元気に就業活動に、社会奉仕活動に励まれますことを祈念致しまして、新年の挨拶といたします。

新年恒例 役員顔合わせ

新年恒例の役員顔合わせが1月4日、センター会議室でおこなわれました。これには北村会長、安藤事務局長をはじめ、理事・監事 専門部会員および半田事務局長代理が出席しました。安藤局長の司会のもと、初めに北村会長が新公益法人となる年の幕開けとしての新年の挨拶をのべた後、出席者一同は昨年の感想や新年の話題で歓談しました。

(写真上) 挨拶する北村会長

今回6ページ建て

2面=馬場市長「新年の挨拶」

3面=SC事業のため署名活動

4面=地域班長だより

5面=「これってなに?」40回一覽表



新年の挨拶

公民協働

「自治に親しみ 自治を楽しむ」

日野市長馬場 弘融氏

辛卯の年、新年明けましておめでとございませう。

シルバ人材センター役員ならびに会員の皆様には、輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より人材センター業務はもとより、自治会や各種団体活動を通じ市政にご協力いただき感謝しています。

また昨年から法人制度が大きく変わることになりましたが、貴センターは「公益社団法人」として活動するということですので、審議会の承認を受けたと伺っています。いくつか課題が残るかもしれませんが、皆様の方で乗り越えていただけると確信いたします。長引く不況に加え政権交代の影響もあり、自治体運営もなかなか難しくなっています。私は就任以来、毎年テーマを設け市政を運営してきました。昨年は「公民協働」でした。自助 兵助とともに、大衆から市民へさらには

市民から公民へそんなプラスアルファ意識を市民各位にお願いしたところです。センターの皆様には、まさにお手本として、子どもたちの見守り支援から多摩川浅川クリーン作戦まで幅広い分野でお力添えいただきました。

そこで今年は、公民協働をさらに一步深める年にしたいと思っております。

テーマは「自治に親しみ 自治を楽しむ」。

地域主権と言われますが、全ての基本は市民一人ひとりの意識と日常の行動にあります。そのさい、皆が難しい顔つきでは協働の枠は広がりません。事を成すには「和気藹々」の雰囲気と明るい笑顔が不可欠だと思います。

江戸時代のスロウライフを思い起こしましょう。環境にやさしい生活を旨とし、労働時間も意外に短かったこと。読み書きそろばんは達人な上に、高度な文化芸

能まで楽しめた江戸庶民。そんな生活にセツトぶくしてみましよう。要するに、公民として日々の施策に親しみつつ、楽しく明るく活動していただく、こんな市政を目指したいと思うのです。よろしくご理解ください。

むすびに、新しい年におけるシルバ人材センターの充実と、会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。年頭祝辞といたします。

ただいま面接中

入会希望者に理事、職員が入会を希望される方は、説明会に続いて面接を受ける必要があります。面接は理事(写真左端)と事務局職員が対応します。



H22.12.20の入会面接

理事会二ニュース

第9回理事会 12月24日

審議事項 正会員の入会

報告事項 11月事業実績、各専門部会・安全管理委員

会の活動報告

「センター行事日程」

3月15日(火) 地域班長会議

生活・保健センター

3月25日(金) 第61回定期総会 七生公会堂

訂正 前号2面「ブロックが一斉清掃」の記事中、8、10行目「ブロック」単位では初めての社会奉仕活動です」の記載は不正確でした。ボランティア活動としてのブロック一斉清掃はすでに5年来行われています。

訃報欄

遠山文男さん(とおやま・ふみお) 大坂上班班長 平成22年12月14日死去。享年72歳。平成19年9月1日入会。元統括リーダー。

配分金の支払日

- 1月20日(木)
- 2月18日(金)
- 3月18日(金)
- 4月20日(水)
- 5月20日(金)
- 6月20日(月)
- 7月20日(水)

高齢者が安心して暮らせる社会を実現するため支援を要望します

SC事業予算確保のため署名活動 地域班長中心に 会員 家族 1565名が協力

昨年度と同様、今年度も行政刷新会議の事業仕分けで平成22年度予算要求額の3分の1程度の削減」という評価結果が出されました。このような評価結果による予算の削減は、センター事業が困難になるほど危機的な問題です。そこでシルバ人材センターは全国的に、高齢者が安心して暮らせる社会を実現するためにシルバ人材センターへの支援の要望と

題する署名等の請願行動を行いました。当センターにおいては、前回同様、11月末から2週間弱の間に、各地域班長さんを中心に会員およびその家族の方々の署名集めをお願いしました。その結果、前回の1422名より1割も多い1565名の署名が集まりました。

地域班長・会員の感想

班長M氏「年末が近く何となく気ぜわしいときに、署名集めは

市長・市議への支援要望書(要旨) 【高齢社会対策を担うSC】

SCは高齢法に定められた公益法人で、全国市区町村の8割で約80万人の会員が福祉・サービス等の各種事業に従事し、地域社会にとってかけがえのない存在となっている。

一方、高齢者世帯は、年金等だけでは生計維持が難しく、年額約50万円の稼働所得が必要。センター会員の年金所得は、200万円未満が約64%を占め、臨時的・短期的就業で生計を維持している。また、働くことを通じて、地域社会の一員として生きがいを実現している。

【厳しい補助金削減はSC事業の存廃に】

SC連合制度が創設された平成8年度の国庫補助額は約146億円だが、22年度は約113億円。

昨年度の行政刷新会議「事業仕分け」の結果、国庫補助金は概算要求比16.2%削減だった。23年度は109億円(4.1%減)の概算要求だが、この度の再仕分けで27億円(20.3%)の大幅削減となっており、SC事業に大きな混乱を招く。

ついては、SC事業の23年度予算確保については、特段のご配慮を強く要望します。

H22.11.25 日野市SC会長 北村謙司

今回の請願行動は署名集めだけでなく、国会をはじめ全国の地方議会および首長に対し「支援要望書」の手渡しが行われました。「支援要望書」は、上記に要旨を示したように、シルバ人材センターの役割を強調し、補助金削減をしないよう要望しています。あて先は国会議員、都道府県議会議員、区市町村議会議員の全員、および各自治体の首長で、当センターは北村会長名で馬場日野市長および日野市議会全議員に手渡しました。

やはり難しかった。班長T氏「一軒一軒、ブザーを押して回ったので大変だった。マンション等に入るのも大変だが、階段も疲れました。

班長N氏「夫妻で署名してくれる人もあったが、会員である夫だけという人もあった。著名な政党の方の署名もあります。たくさん集めることができて良かった。

会員Sさん「一人の署名をいただくのに、質問が多くて時間がかかった。90歳から31歳まで幅広い層の方々が署名してくれた。

市長、全市議に要望書



冬空にロウバイの香り(百草園で)



良い卯年になりますように
高幡不動尊に初詣で

SC事業の 適正運営を

厚労省職業安定局 から全国シルバー人 材センターに注意

最近、シルバー人材センター（SC）を管轄している厚生労働省職業安定局の高齢者雇用対策課から全国シルバー人材センター事業協会（全シ協）に対し、次のような注意がありました。

「SC会員の就業中の事故の発生を発端に：労働者性があると認められる事例や作業に係る指揮命令が就業先から行われているなど、いわゆる『雇用まがい』や『偽装請負』に該当すると思われる不適正な就業が：相次いで発生しております」

「こうした不適正な事業の発生は、SC制度そのものの存在意義を揺るがすものとなりかねないばかりでなく、そうした団体に補助を行うこと自体が問題視されかねない状況にあります」

これを受けて、当センターでも

「適正就業」（「それってなに？」参照）の徹底に努めてまいります。

「雇用まがい（偽装請負）とは？」

請負 受託を装って（契約上は請負 受託の形式であっても）、実際は就業先の指揮命令下で就業している場合や、就業先の従業員との混在した作業等、実体的な雇用関係とみなされる状態のことを、「雇用まがい」「ないし」「偽装請負」と言います。

当センターは 適正就業に努めます



生活・保健センター 受付業務で就業する会員

写真は記事に直接関係ありません

地域班長だより

日野台1班 廣澤征一

私がシルバー人材センターに入会して丸7年、地域班長を引き継いで1年9カ月が経過しました。この間、地域の会員に支えられながら、何とか無難に職務を遂行しています。

さて私が当センターに入会した目的は、「3K」の充実を図るためです。

1つ目のKは、健康です。就業やボランティア活動で体を動かし、健康の維持を保つ。

2つ目のKは

孤独からの脱却

新規事業への参入をぜひ

もう一つ、提

孤獨からの脱却です。これも働く仲間やお客様との会話を通し友人をつくり、生きがいを見出す。

3つ目のKは、ずばりお金です。

働けるうちは自分の小遣い程度は自分でかせぎ、たまには孫たちにも分け与え、良きおじいちゃんでありたい。以上の「3K」を満たしてくれるのが、当センターだと直感したからです。

幸い私は入会してから今まで大した待機期間もなく就業を継続していますが、先日、署名活動の折、ある会員さんよりこんな

不満を聞かされました。それは入会して8カ月以上になるのに、いまだに就業できないというもの。最近の急激な会員増に対し就業斡旋のパイが少ない。この問題はますます深刻化しそうです。

これには、既存の事業の拡大、拡充を図ることは勿論ですが、ぜひ新規の事業にも参入していただきたい。育児、介護、葬儀からゲーテニング等々。われわれは経験豊かなプロ集団であります。適材適所を生かせば、十分勝負になると思っています。ぜひ検討してください。

とです。これから新公益法人となれば、地域社会への貢献が必須です。地域班会議やボランティア活動の参加をポイント化し、就業者選考時に反映することで参画を促し、地域班活動を活性化させる。なぜなら、これこそが今後のシルバー人材センターを展させる唯一の方法だと確信するからです。

適正就業は用語の適正使用から

「雇用」「勤務」「給与」は使わない!

シルバー人材センターの事業には一般企業のような雇用関係はなく、会員はセンターとも、就業先とも請負委任の関係にありません。したがって、適正就業に当たっては、「雇用」に関連する用語の使用は不適切となります。たとえば「賃金 給与」「時給 白給」「勤務」「出勤 通勤」「派遣」「出向」等々です。

「賃金 給与」の代わりにシルバーでは「配分金」が使われ、これは比較的よく普及しています。これに対し、「勤務」はまだかなりの会員

「それってなに？」40回一覧表

発行号	項目
5 (H19.9)	配分金
6 (H19.10)	職群班
7 (H19.11)	指定管理者制度
8 (H19.12)	就業期限確認書
9 (H20.1)	C式運転適性検査
10 (H20.2)	教室事業
11 (H20.3)	フォーラム
12 (H20.4)	シルバー保険
13 (H20.5)	地域班長
14 (H20.6)	リサイクル・フェア
15 (H20.7)	地区リーダー
16 (H20.8)	就業調整委員会
17 (H20.9)	統括リーダー
18 (H20.10)	実践フォーラム
19 (H20.11)	事務費・材料費
20 (H20.12)	ボランティア
21 (H21.1)	接遇
22 (H21.2)	独自事業・自主事業
23 (H21.3)	公益法人制度改革
24 (H21.4)	コーディネーター
25 (H21.5)	地域班長問題
26 (H21.6)	定款(ていかん)
27 (H21.7)	ブロック
28 (H21.8)	第七ブロック
29 (H21.9)	入会案内説明会
30 (H21.10)	新入会員研修会
31 (H21.11)	ライセンス制度
32 (H21.12)	フェア・エイト
33 (H22.1)	入会受付相談
34 (H22.2)	AED
35 (H22.3)	全地域班一斉清掃
36 (H22.4)	就業調整
37 (H22.5)	互助会の事業
38 (H22.6)	安全運転講習会
39 (H22.7)	選挙事務従事会員
40 (H22.8)	社会奉仕活動
41 (H22.9)	就業延べ人員
42 (H22.10)	公益と共益
43 (H22.11)	普及啓発月間
44 (H22.12)	移行認定申請

の間で、また職場で使われているのが実状です。たとえば「勤務表」「勤務時間」「通勤」など。職場リーダーを先頭に、不適正用語を使わないようにしましょう。

今年度8カ月間の事業実績(契約金額)

累計4億2570万円 (前年度比 1.1%増) 但し月別では 11月 9.6%減

当センターの今年度の事業実績は、4～11月の8カ月間を契約金額でみると、下表のとおりです。累計では前年度比1.1%増ですが、月別では11月で9.6%減。公共、民間ともにマイナスで、とくに公共の落ち込みが目立ちます。

平成22年4～11月契約金額(単位:円)

		本年度	前年度	前年度比
公共事業	11月	23,123,569	29,415,387	21.4%
	累計	207,815,314	200,926,050	3.4%
民間事業	11月	16,676,783	17,172,873	2.9%
	累計	140,392,870	144,496,262	2.8%
一般家庭	11月	8,170,357	8,089,181	1.0%
	累計	56,772,320	55,994,765	1.4%
独自事業	11月	3,350,920	2,109,367	58.9%
	累計	20,726,315	19,801,345	4.7%
計	11月	51,321,629	56,786,808	9.6%
	累計	425,706,819	421,218,422	1.1%

「それってなに？」40回超す

本紙の3面(6面建てのときは5面)最下段のコラム「それってなに？」は、シルバー人材センターの用語解説欄として平成19年9月号(第5号)から開始し、昨年12月号(第44号)でちょうど40回、本号で41回となりました(一覧表参照)。どんな項目があったか振り返り、バックナンバーを見ていただければ幸いです。

今後、用語解説集としてまとめることも検討してまいります。

「それってなに？」

適正就業

シルバー人材センターの適正就業は定款で「臨時的かつ短期的」「または軽易な業務に係る」就業とされています。しかしその場合も、とくに「雇用まがい(偽装請負)」「長期就業(特定会員の独占的就業)」「発注者の指揮命令下での就業」「混在就業(労働者と同じライン向じ内容の業務)」等々の違法不適正事案がないこと、かつ「安全就業」であることが条件です。さらに「民業圧迫」と非難されない仕事であることも求められます。

健康に生きる

「粗食のすすめ」を实践

武藤 岩男

生活習慣病は、運動・食事・ストレスが主な原因です。身体を動かさず、塩分、脂肪の多いものを食べ、ストレスがたび重なる病気になる条件が揃います。

私は6年間(平成10～15年)に狭心症の手術(カテーテル)を5回受けているので、現役を引退してから健康に注意するようになりました。

電車通勤がなくなり、家で食事をするようになり、会社に気兼ねする事もなく、マイペースで生活する環境が整ったからです。

緑に囲まれた公園や浅川堤を歩き、食事に注意し、ストレスは受け流すように努めていることです。

現在、特に心がけていることは「粗食のすすめ」を实践するということです。具体的には「パン・スパゲッティ・スープ」などの「カタカ

ナが付いている食品」を食べないようにして、極力「ご飯・うどん・みそ汁」のように「ひらがなの付いている食品」を食べるようにしています。しかし、注意はしているのですが、毎年受けている特定健診ではまだ中性脂肪が高いと注意されるので、「運動をする」「粗食のすすめ」「脳からストレスを消す」の3カ条を、今後も引き続き実践していこうと思っています。

(前安全管理委員)

健康のため大いに歩きましょう



浅川堤を散歩する人々

〔平成22年度安全標語佳作から〕
歩行者の 後ろに目は無い 追い越し注意
武藤 岩男(多摩平2)

自動車安全運転の臨時講習会
サルビア就業者4名に

介護老人保健施設「サルビア」で介護車両の送迎運搬に従事している会員のうち4名に対し12月14、15両日、多摩コースで自動車安全運転講習会が実施されました。これは、さる5月の平成22年度第1回講習会に参加しなかつた就業者に特別臨時で行われたもの。過去2回と同様マンツーマン方式で、受講者は2日に分けて2人ずつが参加しました。

事故報告は直ちに！(再録)

前号で、就業中に事故を起こした会員は、直ちに事務局に報告するようお願いしました。これを怠ると、お客様(仕事の依頼主)との信頼関係を損ない、仕事を頂けなくなる恐れがありますので、重ねてお願いします。

(安全管理委員会)

地球の初夢

松尾 達也

古来日本では一富士、二鷹、三茄子の格言のように初夢でこれに纏わるものを見ると縁起が良いとか、何か良いことが有ると言われて来た。

古代エジプトでも夢にかかわる面白いエピソードがある。

三千四百年前、トトメス四世がまだ王子の時砂漠狩りに出かけた。王子は疲れを覚え、丘の麓で休息をとっていると、夢にスフィンクスが現れた。「私は今丘の下で砂に埋もれている。掘り出してくれたら、あなたをファラオ(王)にしてあげよう」とスフィンクスは言った。夢から覚めた王子は早速、砂を掘り起こすと、大スフィンクスの姿が現れた。王子は約束どおりファラオに即位し、トトメス四世として君臨した。

話は変わって、ビッグバンによって地球が誕生して四十六億年が過ぎた。初夢を毎年見たとしたら、四十六億回という気が遠くなるような回数になる。この地球に初夢のことを聞いてみたら、

近年、温暖化でつなされる夢が多いという答えが返ってきた。

市実施の特定健診、生き生き健診は必ず受けましょう
問合せ先：市健康課、保険年金課